

千葉大学大学院園芸学研究科博士前期課程
2025年10月入学及び2026年4月入学

入 学 試 験 問 題

ランドスケープ学コース (環境造園計画学 領域)

指定科目 (Designated Subjects)

(注意事項)

1. この冊子は監督者から解答を始めるよう合図があるまで開いてはいけません。
2. 監督者から解答を始めるよう合図があったら、最初に解答用紙に科目名、志望領域、受験番号を記入すること。
3. 届け出た科目以外で受験すると失格となります。
4. 解答用紙が2枚以上ある場合は、それぞれに科目名、志望領域、受験番号を記入すること。

1. Do NOT open this question book until instructed by the supervisor.
2. Right after you are instructed to start the examination, fill in your subject, program, and identification number on the answer sheet.
3. If examinations are not taken in the designated subject, you will be disqualified.
4. When you use two or more answer sheets, write your subject, program, and identification number on each sheet.

地域計画学 1/1

問1. 次の①から⑤についてそれぞれ説明せよ。

- ① 津波で被災した沿岸集落における復興にあたっての課題
- ② 地方小都市の中心市街地における商店街の再生
- ③ コンパクトシティ
- ④ 線引き（区域区分）
- ⑤ 里山の荒廃

問2. 農村部に立地し、歴史的町並みが残る集落における地域社会の持続を目的とした場合、どのような地域活性化策が考えられるか。「観光」、「空間管理」の用語を用いて、説明せよ。

風景計画学 1/3
Landscape Planning 1/3

以下に示す Question-A と Question-B どちらか 1 つを選択し、解答せよ。解答用紙に日本語又は英語で記入せよ。

Question-A. 風景計画の理論と調査

Question-A を選んだ場合は、以下の(1)と(2)の2問を解答せよ。

(1) 次の5つの用語から2つ選んでそれぞれ説明せよ。

- ① 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）
- ② 尾瀬国立公園
- ③ 世界自然遺産 白神山地
- ④ 自然再生
- ⑤ 環境教育

(2) 以下の①から③の3問すべてに解答せよ。

私たちが「風景」を認識するとき、そこには二つの重要な要素が関わっている。

一つは、目に見える物理的な景色、すなわち「**実像**」である。山や川、建物、街並みなどがこれにあたる。もう一つは、その風景の背景にある目に見えない意味や文脈、すなわち「**情報**」である。この「実像」と「情報」の考え方を踏まえて、以下の問いに解答せよ。

- ① 風景を認識する上で、「実像」と「情報」はそれぞれどのように私たちの感じ方や理解に影響を与えていると思うか。両者の関係性について、具体例を挙げながら説明せよ。
- ② 近年、インターネットやSNSの普及、また「世界遺産」などの認定制度への関心の高まりにより、風景認識において「情報」の比重が高まっていると言われている。それはなぜだと考えられるか。あなたの考えを具体的に説明せよ。
- ③ 地域にとって魅力的な風景を将来にわたって育てていくための計画（風景計画）において、「実像」（物理的な環境整備）と「情報」（物語や価値の発信）のバランスをどのように考えるべきか。あなたの考えを説明せよ。

Question-B 風景計画の計画と設計 Landscape planning and design

以下の内容について A4 の解答用紙を横使いにして作図(平面図1枚、断面図1枚の計2枚)と解答用紙の余白に記述をすること。

- ① 以下の設計課題について、風景計画学の観点からこのような都市環境の植物園内の生態展示空間の今日的意義について記述せよ。(日本語 200 字程度)
- ② このランドスケープデザインを行う際に配慮すべき事項を 3 つ以上挙げ、記述せよ。(日本語各 100 字程度)
- ③ 平面図 1 点(設計対象地 縮尺 1/500)と主要部分断面図 1 点(縮尺 1/100)を作図せよ。その際、平面図にはスケールバーと方位を必ず含めること。図面中には歩行者(大人と子ども)と車椅子利用者を含める姿を入れスケールがわかるようにすること。また、計画内容には下記設計条件に沿った植栽設計も含めること。

設計課題:都市環境の植物園における植物生態展示空間の風景計画

開園から 40 年が経過し老朽化が進む都市環境の植物園(図-1)を対象に、植物の生態展示空間としての再生を図る。現状は外部から視認性が低く、内部も狭く区画化されているため、学びの場としての機能が不十分である。本課題では、既存施設の規模は継承しつつ再配置を行い、植物種ごとの標本展示から、環境条件に応じた生態展示へと転換し、巡回ルートを通じて植生の生態を観察・体験できる場の計画・設計を行うものとする。

設計では以下の点に留意すること。

1. 対象エリア(図-1)について、隣接道路側にある擁壁を撤去し、道路側にセットバックした広場と管理棟・相談室とトイレを配置する。また、既存の通路を刷新し、敷地中央部に高低差 1m 程度の築山を設け、その周囲を巡回する新たな動線計画を行う。ただし、既存のシンボル樹(移植の困難な大径木の落葉樹)の根元の地盤高を保持し存置保存すること。また、その他の既存樹のうち、約半数の主要な樹木については活用し、改修後の空間の一部を構成するように再配植すること。
2. 敷地の奥側(北側)には、植栽管理での発生材をストックする再資源化ヤードを設定すること、そして、倉庫や作業場、温室を再配置すること。
3. 植栽設計において、新たに造成する地形に沿い、レインガーデン、中湿エリア、乾燥エリアのゾーニングを行い、以下の宿根草の候補植物種を各エリアにおける適性の観点から分類し、図面中に記載すること。

候補植物種：

オカトラノオ (*Lysimachia clethroides*)

オミナエシ (*Patrinia scabiosifolia*)

カワラナデシコ (*Dianthus superb* var. *longicalycinus*)

キキョウ (*Platycodon grandiflorus*)

ノアザミ (*Cirsium japonicum*)

ノシバ (*Zoysia japonica*)

ノハナショウブ (*Iris ensata* var. *spontanea*)

ミソハギ (*Lythrum anceps*)

ワレモコウ (*Sanguisorba officinalis*)

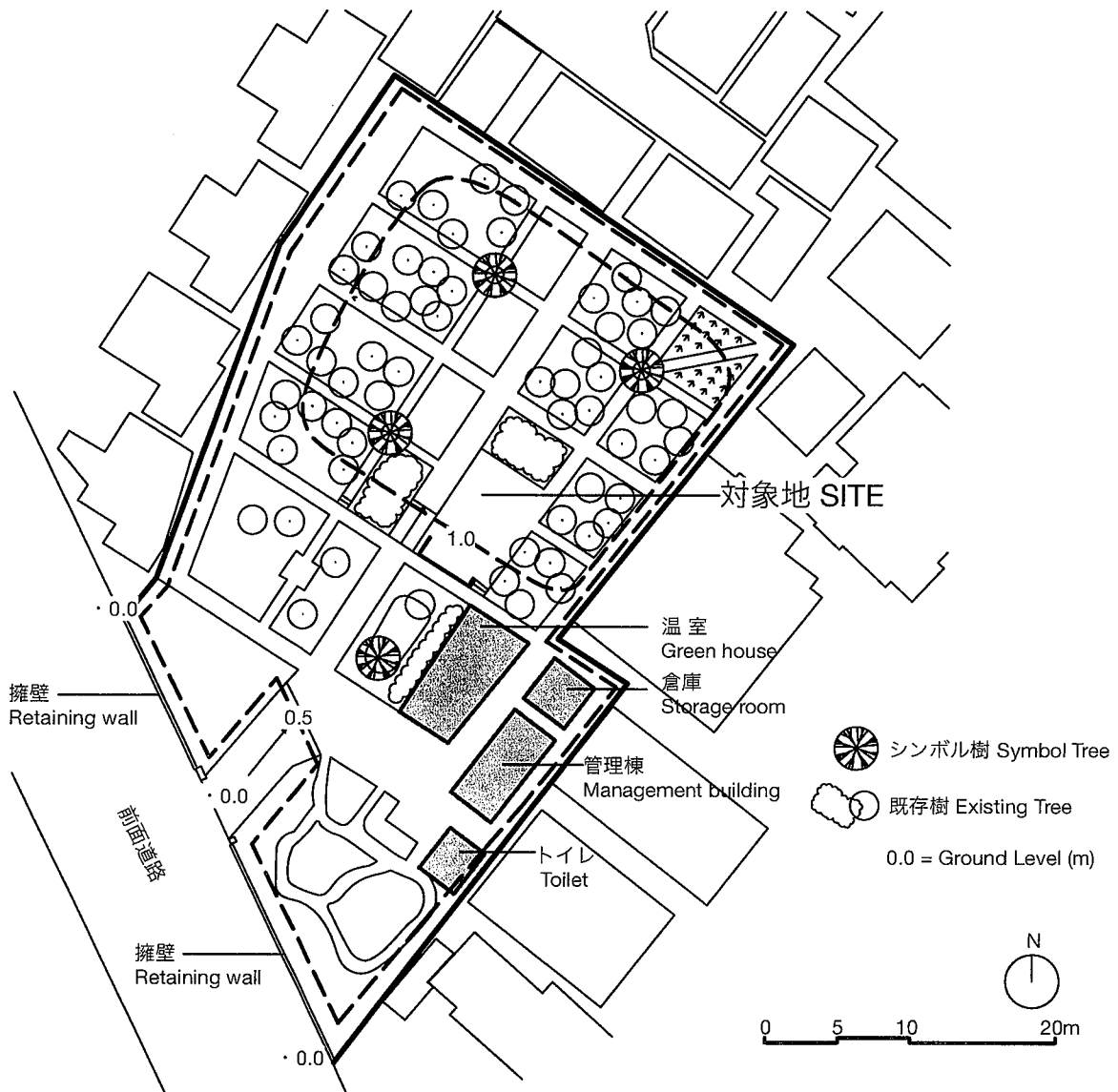


図-1 設計対象地 (TARGET SITE)